

「第32回全国浄化槽技術研究集会」が 愛知・名古屋で開催

平成30年10月9日(火)、10日(水)の両日、名古屋国際会議場において(公財)日本環境整備教育センターの主催(当協会も協賛)による「全国浄化槽技術研究集会」が盛大に開催されました。

9日は午前の研究発表から始まり、当協会の奥村信哉検査員の「小型合併浄化槽における汚泥管理技術による水質改善技術の研究」など全国から20課題の研究発表が行われました。



研究発表の様子

午後からの式典においては日本環境整備教育センターの廣瀬省理事長をはじめ、環境省、国土交通省、農林水産省、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長、当協会の関谷俊征会長から挨拶があり、その後、浄化槽関係事業功労者の表彰が行われ、当協会の島田吉幸副会長が環境再生・資源循環局長表彰を受賞されました。



式典の様子



廣瀬省理事長



環境再生・資源循環局長表彰を授与される
島田吉幸副会長



懇親会の様子

式典後は、東京福祉大学大学院の喜多村悦史副学長から「生活排水処理改革」について特別講演が行われ、人口減少の中で、効率的な生活排水処理のあり方について解説がありました。

その後、午後 5 時 30 分から懇親会が開かれ、多数の参加者が懇談されていました。



関谷俊征会長

全国集会の併催行事として、愛知県合併処理浄化槽普及促進協議会と当協会が共催して「2018 浄化槽展」を開催しました。25 社に出展、ご協力をいただき、約 320 人の皆さんにご参加いただきました。

また、10 日は浄化槽行政担当者研究会と浄化槽検査員研究会が開かれました。午前は共通する題材として行政報告や情報が報告され、午後からは、会場を分け、行政担当者研究会では省エネ型中・大型浄化槽システム導入推進事業をはじめ 5 題の、浄化槽検査員研究会では検査機関から受検率向上に向けた取組など 6 題の情報提供がそれぞれあり、午後 3 時に閉会しました。

両日の参加者数は、全国集会と 2018 浄化槽展を合せて、延べ 1,720 名と盛況な大会となりました。

次回は秋田県で開催されます。



浄化槽展の様子